

「地域共創・未来共創の大学へ」



〒902-8521 沖縄県那覇市国場555番地
Tel 098-832-3270 / Fax 098-832-3271
E-mail adpr@okinawa-u.ac.jp
URL <http://www.okinawa-u.ac.jp/>

沖縄大学への交通案内

- バス** 市内線: 真和志小学校前下車、
南(中大)へ徒歩7分
◎那覇バス **2 4 14**
市内線: 沖縄大学前下車
◎那覇バス **6**
市外線: 那覇バスターミナルより、
沖縄大学前下車
◎沖縄バス **35 40 109 235**

タクシー 那覇空港より20分～30分

モノレール 安里駅より徒歩20分

2020年度

沖縄大学大学院 案内・募集要項

「地域共創・未来共創の大学へ」





2020 年度 沖縄大学大学院 入学案内

Graduate School of Okinawa University

Contents

- 沖縄大学憲章
- 沖縄大学大学院現代沖縄研究科の理念・目的
- 学長挨拶
- 研究科挨拶
- 現代沖縄研究科でなにが学習・研究できるのか？
(修了生のテーマ)

地域経営専攻

- 地域経営専攻の教育研究目標
- 地域経営専攻の教育課程の特色
- 開設科目一覧
- 教員紹介

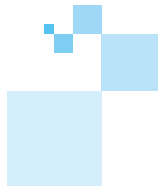
沖縄・東アジア地域研究専攻

- 沖縄・東アジア地域研究専攻の教育研究目標
- 沖縄・東アジア地域研究専攻の教育課程の特色
- 開設科目一覧
- 教員紹介

支援体制・学位授与

2020 年度学生募集要項

- 入試の概要・学費等
- エントリーシート・志願票等



沖縄大学憲章

～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は、創立50周年の記念日を迎えるにあたり、「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな建学の理念として確認し、以下の3つの目標を立て、実行することを宣言します。

1. 地球市民・地域市民の共育の拠点

①地球市民のための知の集積の拠点：

沖縄大学の建学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす21世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

②地域市民のための地域教育の拠点：

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

2. 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

①地球環境に取り組む実践教育：

21世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来もありません。沖縄大学は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

②地域環境に取り組む研究提言：

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間150兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

3. 共創力を育む大学教育への変革

①ユニバーサルな大学づくり：

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

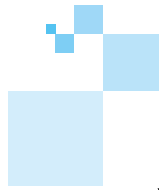
②人間力としての共創力の涵養：

沖縄大学が育成をめざす21世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした21世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」ではなく「何ができるようにするか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心と理解力を高めます。「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助け合い、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

③学生主体の学びの場の共創：

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の3つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。そのことを通じて沖縄大学は、更なる発展をめざします。



沖縄大学大学院 現代沖縄研究科の 理念・目的

本研究科の理念・目的は、現場志向、ネットワーク志向、学際志向を基本的な姿勢として、地域社会と一体となって問題と格闘するなかから、地域の自立的発展のための研究や問題解決の方法を構築することである。

沖縄は米軍基地が高密度で集中し、それが地域の住民の平和を脅かすという、日本と東アジア、太平洋地域、あるいは日米関係の矛盾が先鋭的にあらわれている場である。また、沖縄は亜熱帯気候の島嶼という自然環境を有しており、水資源、エネルギー、食料などを含めて、地域の持続的な発展可能性の課題をかかえる地域でもある。

このような現実的で実践的アプローチを必要とする地域のかかえる課題に取り組んでいくには、現代沖縄の社会・文化・政治・経済・歴史・思想といったさまざまな面に関する深い理解が不可欠である。

また、人文社会科学の諸分野の成果を総合し、「民間学」として出発した、近現代の沖縄学を批判的に継承するとともに、沖縄の社会や文化を新たな視点で解明していく必要がある。そのためには、近隣のアジア諸地域との比較や関係性の探究を通じて、沖縄社会を考察していくことが重要となる。とくに、東アジア地域を視野に入れることで、それが沖縄社会をより多面的なものとして、複眼的に考察する視点が与えられ、複雑に錯綜した現代の沖縄社会の構造的な分析に寄与することにつながる。

また、沖縄において、公共政策や産業育成、まちづくりを含めた地域社会の新たな発展という課題に挑戦していくには、従来以上に、行政と地域の住民、さまざまな組織や企業体、そして大学や研究機関など、多様な主体が連携・協働して地域社会を創造し、運営していくという発想が必要となる。

地域社会が抱えるさまざまな課題に取り組むためには、経済、法、社会、政治等にかかわる諸学問領域のみならず、環境や生態、都市計画等の諸分野の知見と総合させながら、実践的に探究する姿勢が重要である。

本研究科が取り組む現代沖縄研究は、地域社会の諸課題に応え、地域社会の発展に寄与するものである。同時に、現代沖縄研究が対象とする諸課題のなかには、研究や実践における先例が乏しく、依拠すべき体系となる学問領域が必ずしも存在しない場合も多い。本研究科は、地域の住民の立場にできるだけ寄り添って自ら試行錯誤しながら探究するという現場志向、さまざまな視点やアプローチによって現場にかかわっている主体と連携していくというネットワーク志向、そして、既存の学問領域を複合させながら課題に取り組むという学際志向による研究の発展をめざす。

学長挨拶



沖縄大学 学長

盛口 満

Mitsuru Moriguchi

沖縄大学は徹頭徹尾地域志向の大学です。大学院も、従来の学問分野による縦割りの研究ではなく、学際的総合的に現代沖縄を研究する「現代沖縄研究科」です。

【地域とともにある歴史】

沖縄大学は、米軍統治下の沖縄で1958年に嘉数昇先生により創設されました。当時の沖縄の高等教育機関は、米国民政府立の琉球大学のみであり、「本土」渡航もままならない状況で、向学の志に燃える青年たちに学問の場を提供したのです。以来沖縄を背負う有為の人材を多数輩出しましたが、昭和47年の「本土復帰」に際し、日本政府は設置基準に満たないことにより大学として認めないことを決定しました。県知事の「沖大存続要請」、20万人署名運動、「沖大存続を求める県民総決起大会」など県民支援を背景に、再認可により県民と共にある大学としての歴史を重ねることになりました。

【地域共創理念の明確化】

再認可後の新生沖縄大学の目標となる理念は、「地域に根差し、地域に学び、地域と共に生きる開かれた大学」として定式化されました。今、全国大学はその理念を明確にし、地域に根差す大学を標榜するのはありふれたものとなっていますが、70年代当時は、斬新なものでありました。

沖縄大学は、創立50周年を迎えた2008年、沖縄大学宣言を行いました。「地域と共に生きる大学」から、「地域とともに時代を創る大学」へと歩を進め、「地域共創、未来共創の大学へ」とその目標を再定義したのです。

【地域共創・未来共創の研究】

1988年創立30周年事業として地域研究所を設置しました。琉球弧の抱える問題を大学内外の専門分野を異にする研究者の共同研究によって解明していく場を作ることを目的としています。

2005年に大学院を創設します。地域の大学である沖縄大学にふさわしく、「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」からなる現代沖縄研究科です。研究科そして両専攻の目指すものは、別項に譲ります。沖縄大学から発する研究が、地道に地域を変える、新しい時代を共創することを念願しています。そのような志を持つ皆さんを心から歓迎します。いざ、地域共創・未来共創の大学へ！

研究科長挨拶



沖縄大学 研究科長

宮城 公子

Kimiko Miyagi

正直に言うと私が大学院に進学した最大の理由は、就職したくないということだった。何十年も前の当時、よほど自由な職場以外は、多くが「制服」のある会社だったからだ。自由業を選ぶほど大胆ではなく、しかし中学、高校と我慢に我慢を重ねたセイフクだけは絶対に着ないと決意してしまっていたのだ。大学での勉強は決して嫌いでもなく、むしろスリリングな講義も多かったし、それじゃあ大学院しかない、というかなり情けないずるい選択だった。

東京の大学院での日々は、社会から「逃げた」ような思いを引きずっていた私にはこれ以上ありがたいものはない、というほどの、ほぼ「美しい」とまで形容したい時間だった。仲間の発表に、教員の指摘に、ディスカッションでの敗北のしまくり、日々が熱をおびていて、苦しくも面白いあの日々。第二外国語との苦闘とその快感。学外の院生仲間との勉強会や雑誌発行や合宿。家庭教師や予備校、はてはバーのチーママまでカバーしたアルバイト。電車で部屋で公園でカフェで読んだ本、本、本たち。愛する音楽、映画たち。

最終的には少し修士論文でトラブって指導教員にも苦い顔をされたりしたが、大学院第一号は終了。しばらく東京での英語専門学校勤務の後、これもありがたく県費で米国の大学院に行くことができた。合格者六人のうち最下位だから特別研修を受けること、というおまけ付きでも、何をか患わん。宝物第二号となった。私事を詳細に書くわけにもいかないが、米国の大学院生活も充実していた。英語の修士論文で日本人の日本学研究者を論じるということも興味深かった。

本学の研究科は確かに規模は小さい。けれど従来の研究科長の方々も述べてきているように、それは質の良し悪しとは無関係だ。少数で多くの教員から多くのことを堪能できるし、年齢の幅の大きさは互いの経験や知見のやり取りをより豊かにするだろうと思う。また、私の指導の下で卒業論文を、本研究科で修士論文を仕上げ、さらに他大学の博士課程に進んだ修了生もいる。学部、大学院と育ち、社会で自分の学んだことを活かせる道がきっと開かれていくと思う。たとえ社会生活はほぼ満喫し終え、心の余裕を持って何か知りたい、研究したいだけという年齢の方でも、それについての話しを友人と交わしたり、文章化したりして社会に伝える、という楽しい時も待っている。

研究科関係者は、教員も職員もそのお手伝いをする。どうか何でも相談してほしい。また、もし教職員のハラスメントなどが感じられたら、絶対見逃さないできちんと訴えてほしい。厳しくも自由で風通しのよい大学院の時空を共に過ごせるように。

専攻主任挨拶



地域経営専攻 専攻主任

吉川 麻衣子

Maiko Yoshikawa

2019年度より、地域経営専攻の専攻主任を務めます。よろしくお願いたします。

地域経営専攻では、「地域を経営する」という発想の下に、沖縄の地域社会が直面する経済的、社会的課題を学術的に解明し、将来の学術的發展に貢献しようとする人材の育

成を目指しています。2015年度より講義科目区分が拡充され、「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」の3分野体制となりました。各講義科目と演習科目には、本学の多彩なスタッフが指導にあたります。修士論文作成に際しては、指導教員から論文指導を受けるだけでなく、講義科目担当教員等からも適切な助言を受けることができます。また、長期履修制度や、特定課題研究による修士号取得制度など、社会人学生も学びやすい制度が整いつつあります。

皆さまそれぞれに、「大学院へ進学したい」理由・背景があるはずで。学問追究のために大学院へ進学する方、地域社会での長年の実践を学問体系に基づいた論文として書き上げるために進学する方など、本学にもさまざまなニーズをもった院生が在籍しています。

私の専門分野である心理臨床学の世界では、研究と臨床実践が解離してしまうことがしばしばあります。いくら名著を読み耽って知識を得ようとしたとしても、目の前のクライアントから学ぶ以上のことは書かれていません。“正しさ”とは何かを模索し苦悩する院生の日々でした。臨床実践を通して多くの方の人生に触れ、筆舌に尽くしがたい人の心の機微に触れ、その奥深さを感じるにつれて、“正しさ”は、今ここで起きている現象の中にこそ在るのだという実感を持つようになっていきました。無論、分野によって学び方は異なりますが、それぞれの方が自分の鉱脈を探し出せるよう願っております。そのために、じっくりと自分自身の研究テーマと向き合い、「安心して学び・迷える」環境づくりに尽力してまいります。



沖縄・東アジア地域研究専攻 専攻主任

我部 聖

Satoshi Gabe

沖縄・東アジア地域研究専攻は、沖縄・琉球弧と東アジアの歴史、文化、政治、社会に関わる諸問題について学際的な視点から総合的に学びます。

「沖縄地域研究分野」では、沖縄・琉球弧という地域を対象に、歴史、文化、社会、言語、政治、教育等の視点から総合的に学ぶことができます。

「東アジア社会文化研究分野」では、アジアという地域の視点、あるいは中国大陸、台湾、朝鮮半島、ベトナムなど近隣地域を対象に、歴史、文化、言語、社会等の視点から研究することができます。

また「沖縄地域事例研究」や「東アジア地域事例研究」では、コロキウム(共同ゼミナール)形式の授業を通じて、複数の教員や研究者と大学院生が討論を重ねながら、沖縄や東アジアの歴史、社会、文化に関する重要な研究への理解を深めるとともに、修士論文作成に結びつけています。

本専攻修了生で現代沖縄研究奨励賞受賞者の研究テーマをあげると、「近代沖縄における旧慣・内法調査の研究」、「国際人権法と琉球・沖縄」、「琉球・沖縄における漢籍文化の基礎的研究」、「沖縄県における女性労働に関する基礎的研究」、「スリランカ文化におけるつながりの概念とその実態」、「病むことと排除—沖縄のハンセン病者のあり方から」、「『沖縄戦の記憶／記録を継承する』という思想」等、いずれも地域の歴史・文化・社会を総合的かつ批判的に検証し、現代沖縄を問いなおす新たな視点を提示しています。

現代沖縄研究科の理念には、「近現代の沖縄学を批判的に継承する」ことが明記されています。沖縄学には、総合的に沖縄を研究する学術的性格と、沖縄はどうあるべきか、という沖縄のアイデンティティを批判的に探究する思想的性格があります。総合的視点から沖縄を分析するとともに、学際的な視点から「東アジアのなかの沖縄」はどうあるべきかを探究することは、現代沖縄をめぐる問題を解きほぐすための重要な視点を与えてくれると思います。

現代沖縄研究科でなにが学習・研究できるのか？

2006年度 修了生のテーマ

■地域経営研究専攻

- ・高根博樹：「沖縄県における赤土流出防止対策の政策的検討」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・後藤 聡：「韓国近現代史における女性の地位の諸相とその変容」
- ・川満 彰：「旧具志川市兼箇段村における村落空間」
- ・熊谷ふさ子：「沖縄における手縫い文化」
- ・平良勝保：「近代沖縄における旧慣・内法調査の研究」（現代沖縄研究奨励賞 100 万円受賞）
- ・程 天虹：「琉球王国における中国との貿易関係について」

2007年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・大城清一：「『場』の創造によるまちづくりの研究」
- ・赤嶺邦子：「少子高齢化における在宅介護の現状」
- ・金城義優：「危険運転死傷罪に関する一考察」
- ・劉 振梅：「観光資源としての『琉球料理』の研究」
- ・喜瀬一郎：「『かけない』農業による熱帯果実の栽培実験」（特定課題研究）

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・奥平 一：「『国民教育』の考察」
- ・親川裕子：「国際人権法と琉球・沖縄」（現代沖縄研究奨励賞 50 万円受賞）

2008年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・茶谷友以：「沖縄の IT 産業の状況と人材確保・育成について」
- ・友利智美：「沖縄県 NPO 法人の現実と会計・税制・財務－提出書類の不備と今後の提案－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・榮野川敦：「琉球・沖縄における漢籍文化の基礎的研究－琉球関係漢籍の書誌学的分析を通して－」（現代沖縄研究奨励賞 100 万円受賞）
- ・鳴海啓之：「アイヌ民族をめぐる歴史・政策から差別と偏見の原因を探る」

2009年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・北島 修：「沖縄のソフトウェア産業の多様化・高度化について」
- ・井上 聖：「『自發』と『開發』－個人と地域が力を取り戻す生き方へのトランジション－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・新美喬之：「沖縄県における海面利用と総合調整機能の可能性－宮古ダイビング事件を事例とする美ら海連絡協議会の取り組み－」
- ・高橋 弘：「宮古島における人頭税制の特徴に関する研究－その廃止運動とまなざしに関する一考察－」

2010年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・比嘉克政：「浦添市における歴史まちづくりの方向性についての考察」
- ・周 波涛：「中国の乳製品産業における後発優位性戦略」
- ・西原民雄：「沖縄県立病院の現状と課題について」
- ・前原千穂：「自動車産業における顧客との信頼関係の構築」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・劉 艶：「東アジアの舟漕ぎ儀礼に関する調査研究」
- ・松野市子：「沖縄県における女性労働に関する基礎的研究」（現代沖縄研究奨励賞 50 万円受賞）
- ・島田勝也：「明治政府の南西諸島への海底電信線敷設に関する考察」
- ・横山正見：「聴覚障がい者のアイデンティティ形成に関する研究」

2011年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・王 娉婷：「中国化粧品市場における多国籍企業経営戦略の比較研究」
- ・邱 瓊：「日中両国の観光政策と沖縄県の国際観光への取り組みについての考察」
- ・金城和哉：「農を基とした地域再生に関する研究」
- ・幸地順子：「観光の概念と南城市における Sustainable tourism の導入」
- ・與那嶺新：「市民的公共性による地域自律型『住民自治』」
- ・上原政幸：「モズク養殖業分析用産業連関表の構築とその潜在市場の分析、並びに政策的含意の研究」
- ・小川利明：「精神障害の労災認定基準に関する一考察」
- ・嘉数千賀子：「那覇市における『放課後子どもプラン』の実証的研究」
- ・嘉数 睦：「沖縄における病弱教育の歴史研究」
- ・柴山卓郎：「泡盛の本土流通における現状と課題」
- ・石 建伸：「日中貿易構造の変化」
- ・外間淳也：「刑事責任能力判断基準に関する一考察」
- ・宮城哲子：「実態調査から見る医療的ケアを要する障がい者の卒業後の地域生活」
- ・山城尚子：「地域再生と食育の役割」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・儀間真真子：「スリランカ文化におけるつながりの概念とその実態」（現代沖縄研究奨励費受賞）
- ・小笠原快：「沖縄社会の都市化によるコミュニティの変貌と可能性」
- ・新城健太：「沖縄社会における疎外的状況へのアプローチ」

2012年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・長嶺真子：「沖縄県における派遣看護師の継続教育プログラムの構築－フィジカルアセスメントに焦点を当てた継続教育の可能性－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・石川幸代：「沖縄県北部離島・僻地の保健医療の変遷－伊平屋村の保健医療に携わった人々と民間療法－」
- ・宇根底洋子：「沖縄県における墓地の実態と課題」
- ・大城弘子：「未成年喫煙者の禁煙行動を促すアプローチの検証－沖縄の高校生の禁煙支援を通して－」
- ・黄 婧：「清末における日本留学の研究－中国人女子留学生を中心に－」

2013年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・砂川悦子：「公的医療機関におけるチームマネジメント－褥瘡対策チームを対象として－」
- ・山本 剛：「学校経営における教職協働を促すストーリーテリングについて－学校組織での共有化、協働化－」
- ・大嶺夏子：「沖縄県内の地方自治体におけるキャリア開発支援環境について
－研修制度とジョブ・ローテーションを連携したキャリア開発支援環境の構築－」

- ・伊佐敬太：「効果的な人材育成を行うための組織改革について」
- ・趙文博：「中国人旅行者の旅行先選択行動に関する一考察」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・佐久川正美：「青木恵哉の救済思想についての一研究」

2014年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・石田友里：「沖縄の地域社会における認可外保育施設の役割と課題
－自治会幼児園、共同保育園、自主保育活動の事例から－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・鈴木陽子：「病むことと排除－沖縄のハンセン病者の在り方から－
(現代沖縄研究奨励賞 50 万円受賞)」

2015年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・福山 翔：「ギャンプリング障害と他の依存との関連性について－実態の把握と支援方策の検討－」
- ・新地毅一郎：「新産業創出による経済効果の産業関連分析－バイオ燃料を事例に－」
- ・銘苅愛子：「巡回相談員と特別支援教育コーディネーターの連携に関する研究－発達障がいの児童生徒を中心に－」
- ・又吉節子：「性犯罪規定に関する一考察－性犯罪の適正処罰に向けて－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・赤池敏生：「戦後沖縄におけるマス・メディアの普及と地域社会－親子ラジオを中心に－」

2016年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・王 泰龍：「技術革新におけるコンテンツ多角化戦略－なぜ、台湾ゲーム企業は最悪の不況を乗り切ったのか－」
- ・齊藤 登：「来沖外国人観光客を通じた国際物流に係る考察」
- ・玉栄 宏：「要援護高齢者の災害避難に関する現状と課題
－A市の災害対策の現状と介護支援専門員へのアンケートからの新しい提唱」

- ・外間誉也：「新技術による市場の再定義と活性化－なぜ、映画館は栄光を取り戻したのか」
- ・前川美紀子：「スポーツ少年団指導者の食育意識に関する実態調査－A県を事例に－」
- ・宮城 翔：「国と地方公共団体の関係における裁定的関与に関する一考察－沖縄県辺野古新基地建設をめぐる争訟から見た論点と対抗措置の研究」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・宜保翔太：「近代日本における道徳教育に関する歴史的研究－沖縄県を中心に－」

2017年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・漢那一将：「少年法に関する研究－歴史的視点を踏まえて－」
- ・金城佐枝美：「使用者及び役員等の第三者に対する責任に関する一考察－その法的性質の考察を中心に－」
- ・島袋真理：「医療事故における紛争処理の研究」
- ・當原直子：「『性刑法』に関する研究」
- ・比嘉恵子：「不登校生徒に対する支援の在り方に関する研究－沖縄県の高等学校の教育相談における養護教諭の関わりを中心に－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・藤原 健：「『沖縄戦の記憶／記録を継承する』という思想－戦記として『土地の記憶』を描いた『沖縄戦新聞』にみる戦後沖縄の新聞ジャーナリズムから－」(現代沖縄研究奨励賞 100 万円受賞)

2018年度
修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・柴田忠佳：「学校における効果的な喫煙防止教育のあり方に関する研究」
- ・宇田 薫：「『ゆいまーる』と地域包括ケアシステム(自助・互助・共助・公助)における『互助』との関連性」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・賀数 淳：「唐手の発達と伝承から考察する沖縄伝統空手道の定義」(特定課題研究)
- ・林 家瑄：「地域に根差した持続可能な農業をめぐる思想と実践－近年沖縄における有機農業の生産と流通を事例に－」

地域経営専攻

学位授与方針 (Diploma Policy)

沖縄の地域社会が直面する経済的、社会的課題を学術的に解明し、以下のいずれかの視点から、将来の学術的發展に貢献できる。

- (1) 沖縄の経済や産業構造の問題を調査分析し、問題解決の方向性を示すことができる。
- (2) 地域社会における法律や自治に関する諸問題を分析し、政策の提言等ができる。
- (3) 沖縄の健康、保健、福祉等の実践的課題に取り組み、課題解決の方策を提示できる。
- (4) 上記(1)から(3)までの諸問題を、専門的および学術的視点から分析・考察する研究能力を身に付けている。

【修了判定・学位授与の基準】

- (1) 本研究科に2年以上在籍し、本研究科所定の講義科目および演習30単位以上取得し、中間発表会を経て学位論文等を作成し、学位論文等の審査に合格した者に学位を認定する。
- (2) 学位論文等審査においては、対象領域の研究水準に関する基本的な知識、研究テーマの方法および内容の明確さ、独創性、論文の体系性と一貫性、文章の完成度等の観点から、公正かつ慎重に判断される。

教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

地域経営専攻では、沖縄社会が直面する諸問題について、専門的かつ総合的に対応するため、「講義科目」について「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」「基礎研究」「事例研究」の5区分で編成する。

- (1) 「経済経営・産業分野」では、沖縄の地域経済や産業構造、経営をめぐる諸問題について基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (2) 「法律・自治分野」では、地域社会における法律や自治について、基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (3) 「健康福祉・生活環境分野」では、沖縄の健康、保健、福祉やまちづくりについて基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (4) 「基礎研究」では、調査研究方法を中心にしてその基礎的手法を学ぶ。
- (5) 「事例研究」では、企業や自治体、医療機関や福祉施設等、地域経営の現場の課題を実践的に学ぶ。

上記5区分に加えて、「演習」では、「研究導入演習」「研究指導演習」を通じて、指導教員が修士論文や特定課題研究の指導を行なう。

入学者受入方針 (Admission Policy)

地域経営専攻は、沖縄の地域社会が直面する経済や産業構造、法律や自治、健康福祉、生活環境等の諸課題を学際的に解明し、将来の学術的發展に貢献しようとする以下の人材を求める。

- (1) 大学院での研究に必要な基本的素養があること。
- (2) 希望する研究分野に関して問題意識があること。
- (3) 課題に継続的・主体的に取り組むための意欲・能力があること。

地域経営専攻の 教育課程の特色

地域経営専攻では、「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」、「健康福祉・生活環境分野」の3分野に分けて、多彩で斬新な科目群を用意しています。

1

講義科目

演習科目、特に1年次必修の研究導入演習と並行して総合的、学際的な研究視点を獲得し、また各自の学問的関心に基づいて専門的な知識を得るために設置してあるのが選択科目としての講義科目です。

経済経営・産業分野では、沖縄経済論の構造的問題や今後の経済振興のための方策について考究します。

法律・自治分野では、法学や地域政策の諸科目を学ぶことで、地域社会の法的な問題や、地方自治に関わる諸問題を考察します。

健康福祉・生活環境分野では、環境やまちづくり、保健、福祉に関する課題を分析します。

法律・自治分野と健康福祉・生活環境分野は、地域の安心・安全に寄与できる科目を充実して配置しています。

2

基礎研究科目

2017年度から「研究法入門」を設置しました。この科目は調査に基づく実証的研究の基礎や入門となる科目です。データの統計的処理の基本についても学びます。

3

事例研究科目

現場での実践的な課題を理解し、具体的な問題解決の方途を考究するために、また、フィールド調査等の実際的研究の基礎的理解を目指すために「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」の事例研究を配置しています。現場志向の実践的な研究を進めることができます。

4

演習科目

2年間にわたる一貫した演習を通じて、取り組むべき問題の発見、課題の解決に向けた研究テーマを設定し、修士論文あるいは特定課題研究が完成できるような指導体制を用意しています。

2019年度 現代沖縄研究科 地域経営専攻 開設科目一覧

区分	区別	科目名	期別	クラス	単位	週時間	配当年次	担当者	備考
経済経営・産業分野	選	イノベーション特論Ⅰ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	隔年開講
	選	イノベーション特論Ⅱ	前	01	2	2	1・2	崔珉寧	
	選	公共経済学特論Ⅰ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	隔年開講
	選	公共経済学特論Ⅱ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	金融特論Ⅰ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	隔年開講
	選	金融特論Ⅱ	後	01	2	2	1・2	村上敬進	
	選	国際経済学特論	後	01	2	2	1・2	大城淳	隔年開講
	選	マーケティング特論	後	01	2	2	1・2	豊川明佳	
	選	人的資源管理特論	前	01	2	2	1・2	島袋隆志	新設
	選	日本経営特論	後	01	2	2	1・2	石川公彦	
選	沖縄企業・ビジネスモデル研究	後	01	2	2	1・2	與那原健		
法律・自治分野	選	社会学特論Ⅰ	前	01	2	2	1・2	圓田浩二	隔年開講
	選	社会学特論Ⅱ	後	01	2	2	1・2	圓田浩二	
	選	労働法特論	前	01	2	2	1・2	春田吉備彦	隔年開講
	選	比較法政策研究	前	01	2	2	1・2	組原洋	
	選	地方自治特論	後	01	2	2	1・2	島袋純	旧：企業法特論Ⅰ
	選	企業法特論	集	01	2	2	1・2	新城将孝	
	選	憲法特論	後	01	2	2	1・2	高良沙哉	隔年開講
	選	自治法学特論	前	01	2	2	1・2	組原洋	
	選	民法特論	後	01	2	2	1・2	吉本篤人	新設
	選	刑法特論	後	01	2	2	1・2	森川恭剛	
健康福祉・生活環境分野	選	地域福祉特論Ⅰ	前	01	2	2	1・2	上地武昭	隔年開講
	選	地域福祉特論Ⅱ	後	01	2	2	1・2	上地武昭	
	選	地域計画特論Ⅰ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	隔年開講
	選	地域計画特論Ⅱ	前	01	2	2	1・2	小野啓子	
	選	地域保健・健康教育特論Ⅰ	後	01	2	2	1・2	山代寛	隔年開講
	選	地域保健・健康教育特論Ⅱ	前	01	2	2	1・2	山代寛	
	選	司法と保健福祉特論Ⅰ	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	隔年開講
	選	ソーシャルワーク特論	前	01	2	2	1・2	富樫八郎	
	選	メンタルヘルス特論	後	01	2	2	1・2	名城健二	隔年開講
	選	沖縄自然環境特論	前	01	2	2	1・2	藤井晴彦	
	選	臨床心理学特論	後	01	2	2	1・2	吉川麻衣子	隔年開講
	選	福祉政策と参加特論	後	01	2	2	1・2	金蘭姫	
	選	公衆衛生学特論	後	01	2	2	1・2	新城正紀	新設
選	実践的研究法入門	前	01	2	2	1・2	等々力英美		
基礎研究	選	学術論文のための日本語	前	01	1	2	1・2	高江洲頼子	旧：研究法入門
	選	学術論文のための文章作成法	後	01	1	2	1・2	高江洲頼子	
	選	学術論文のための文章作成法	後	01	1	2	1・2	高江洲頼子	
事例研究	選	法律・自治分野事例研究	前	01	2	2	1・2	組原洋	夏期集中
	選	経済経営・産業分野事例研究	集	01	2	2	1・2	島袋隆志	
	選	健康福祉・生活環境分野事例研究	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
区分	区別	科目名				配当年次	担当者	備考	
演習	必	研究導入演習				1	専任教員	} 8単位 } 必修	
	必	研究指導演習				2	専任教員		

22 単位選択必修

地域経営専攻 大学院担当教員紹介 (2019年度)

- 経済経営・産業分野
- 法律・自治分野
- 健康福祉・生活環境分野
- 事例研究
- 基礎研究

石川 公彦 修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
- 「ラーニング・リーダーシップ入門—ダイバーシティで人と組織を伸ばす」牛尾・石川・志村共著、日本経済新聞出版社、2011年9月。
 - 「ケースで学ぶまちづくり—協働による活性化への挑戦」岡田・石川共編著、創成社、2010年9月。
 - 「賃金・時短闘争」法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』旬報社、2019年6月～2011年6月（各年発行、各年執筆担当）。
 - 「小特集に寄せて：CSR経営とグローバル枠組み協定の締結にみる日本企業の変化と可能性」『社会政策』第8巻第1号、ミネルヴァ書房、2016年6月。
 - 「非正規労働者の組織化における主体とリーダーシップの複線化—旧イオンリテール労働組合の事例から」『労働法律旬報』第1831+32号、旬報社、2015年1月。
 - 「経済社会を創造するまちづくりの論理」『一橋ビジネスレビュー』61巻2号、東洋経済新報社、2013年9月

- ◎研究テーマ：日本企業における人事労務制度の研究
◎専門分野：日本経営論、人的資源管理論、労使関係論、まちづくり

上地 武昭 修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
- 「沖縄から考える！ 分権化と地域福祉—地域福祉の原点を求めて—」日本地域福祉学会第11回大会報告書 沖縄地域福祉学会川添雅由・上地武昭監修
 - 「月刊社会教育」1996、12月号、No.491 「住民自治活動の拠点としての沖縄の公民館—特に字公民館の可能性を探る—」投稿
 - 「沖縄の地域福祉実践」川添雅由編 沖縄県地域福祉学会 平成9年5月
「沖縄の地域福祉と社会教育—地域住民の主体形成活動としての字公民館活動の現状と課題を考える—」掲載
 - 「社会福祉構造改革と地域福祉の実践」大橋謙策・宮城孝編 東洋堂企画出版社 平成10年8月25日 ～市町村社会福祉協議会の経営のあり方と課題—掲載
 - 「おきなわの社会教育」小林文人・鳥袋正敏編「第18章 沖縄の保健と福祉、NPO活動」～読谷村の地域福祉活動～掲載

- ◎研究テーマ：地域福祉推進体制の構築
◎専門分野：地域福祉論

大城 淳

- ◎代表著書・論文
- 「Tariff policy and transport costs under reciprocal dumping」, Papers in Regional Science, Vol.92, pp.599-608, 2013年。
 - 「Capital Mobilityresource Gains or Losses? How, When, and for Whom?」(共著), Journal of Public Economic Theory, Vol.18, pp.417-450, 2016年。
 - 「Market-Share Contracts with Vertical Externalities」(共著), Asian Journal of Law and Economics, Vol.5, pp.1-15, 2014年。
 - 「Solitary City」, The Manchester School, Vol.85, pp.744-764, 2017年。

- ◎研究テーマ：企業誘致をめぐる政府間の戦略的相互依存関係
◎専門分野：空間経済学、応用ミクロ経済学

小野 啓子 修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
- 「沖縄におけるサトウキビ農業自立のための方策—ハワイにおけるサトウキビプランテーションの土地利用転換に学ぶ」, 沖縄県対米請求権事業協会・助成シリーズNo.49, 2014年
 - 「A Study of Urban Morphology of Japanese Colonial Towns in Nan'yo Gunto: Part5 Ponape, Yap and Jaluit Branch Districts (Shicho)」日本建築学会計画系論文集2012年6月 第77巻 第676号
 - 「A Study on the Coastal Walk on the Eastern Coast of Metropolitan Sydney, Australia」土木学会論文集 D1(景観・デザイン)Vol.68(2012)No.1
 - 「壺屋やちみん通り景観設計(2003年度土木学会デザイン賞優秀賞)」

- ◎研究テーマ：太平洋島嶼地域の日本人町研究、地域開発と観光、緑化等
◎専門分野：都市計画、都市史、地域開発

金 蘭姫

- ◎代表著書・論文
- 金蘭姫著「第17章 地域福祉とローカル・ガバナンス」牧里毎治・川島ゆり子・加山弾編著『地域再生と地域福祉—機能と構造のクロスオーバーを求めて—』相川書房、2017年、p.171-186。
 - 金蘭姫著「第3章 住民参加による地域福祉計画」牧里毎治・川島ゆり子・加山弾編著『地域再生と地域福祉—機能と構造のクロスオーバーを求めて—』相川書房、2017年、p.13-18。
 - 金蘭姫著「地域福祉政策におけるコミュニティソーシャルワーカーの役割についての一考察—事例をととして—」沖縄大学人文学部『人文学部紀要』19号、2017年、p.67-80。
 - 金蘭姫著「コミュニティソーシャルワーカーによる地域福祉推進プロセスに関する研究—『公共空間』概念を用いて—」2012年2月、関西学院大学審査博士学位論文。
 - 金蘭姫著「地域福祉の実践方法としての対話的コミュニケーション・プロセス構築—コミュニティソーシャルワーカーの実践事例を通して—」関西学院大学人間福祉研究科『人間福祉学研究』(査読あり)、第3巻1号、2010年11月、107-122。
 - 金蘭姫著「地域福祉推進と『公共的空間』」関西学院大学社会学部『関西学院大学社会学部紀要』第102号。
 - 金蘭姫著「韓国の地域福祉推進における市民団体の現状と可能性について—考察—」日本社会福祉学会『社会福祉学』(査読あり)第49巻4号。
 - 金蘭姫著「地域福祉政策における公私協働関係のあり方について—考察—ガバナンス論を分析視点として—」関西学院大学人間福祉学部研究会『人間福祉学研究』(査読あり)第2巻1号。

- ◎研究テーマ：地域福祉政策と『公共的空間』づくり
◎専門分野：社会福祉、地域福祉政策、コミュニティソーシャルワーク

鳥袋 隆志

- ◎代表著書・論文
- Takashi SHIMABUKURO "Working condition in Postwar Okinawa and the Problem of Child Poverty" 明治大学経営学研究『経営論集』第66巻第2号、2019年3月。
 - 「沖縄大学部生のアルバイト実態調査報告書」成定・宮島・鳥袋共著、2017年3月。
 - 「南風原町中小企業実態調査報告書」南風原町経済建設部産業振興課、2016年3月。
 - 「経営理念と後継者育成の特徴」永山利和・鳥袋 共著『個性ある中小企業の経営理念と人事労務管理』社会保険労務士総合研究機構、2015年3月、(第3章3節担当執筆)。
 - 「地方自治体の非正規職員の実相」,「イギリスの労使紛争調停・仲裁機関ACASとその社会的役割」黒田兼一・小越洋之助 編著『公務員改革と自治体職員—NPMの源流・イギリスと日本』自治体研究社、2014年3月、(第3章1節、第8章担当執筆)。
 - 「中小企業の後継者育成の現状と課題—事業承継事例を中心に—」『Myネット 経営ミニレポート』明治安田生活福祉研究所、2012年4月～2013年3月、(毎月号連載執筆)。
 - 「経営労務監査—労働の側面からの企業評価の展望—」『ニュースレター』(39)、雇用構築学研究所監修、2013年1月。
 - 「被災地自治体職員へのインタビュー記録」人事給与研究会編『被災地公務員労働調査報告—岩手県陸前高田市、大船渡市、大槌町(文科省科研費基盤研究(B)2011-2013年度調査)』地方自治問題研究機構、2012年6月、(第2章担当執筆)。
 - 田村 豊・鳥袋 共著『「労務監査」の基本的性格とその可能性—労務監査と企業経営—』『労務理論学会誌』(20)、晃洋書房、2011年3月。

- ◎研究テーマ：戦後おきなわにおける「働き方・働かせ方」の変化。労働の側面からの企業評価の構築。
◎専門分野：経営労務論、人的資源開発論、人的資本論。

■ 崔珉寧



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 「アータンから考える沖縄の幸福」(共著)芙蓉書房出版,2011年
- 「『ご当地ラーメン』の地域ブランド戦略」(共著)新評論,2009年
- 「中小都市『B級グルメ』戦略」(共著)新評論,2008年
- 「『村』がブランドになる時代」(共著)新評論,2007年
- 「地方圏の産業振興と中山間地域」(共著)新評論,2007年
- 「日本企業研究のフロンティア第2編」(共著)有斐閣,2006年

◎研究テーマ:地域企業と産業におけるイノベーション戦略

◎専門分野:イノベーション論、経営戦略論、地域産業

■ 新城 正紀



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- “Development of a clinical nurse recognition scale for female intimate partner violence patients” (共著), Japan Journal of Nursing Science, Vol.13, pp.437-450, 2016年. (doi:10.1111/jjns.12124).
- “Unnecessary Dieting Intentional and Behavior among Female Students in Naha City, Japan” (共著), Tropical Medicine and Health, Vol.43, pp.131-140, 2015年.
- 大学と病院の共同で行う院内研修 中堅看護師能力開発のための看護継続教育プログラムの活用 (共著), 看護実践の科学, Vol.40, pp.125-138, 2015年
- “Development of competence scale for senior clinical nurses” (共著), Japan Journal of Nursing Science, Vol.10, pp.55-67, 2013年. (DOI:10.1111/j.1742-7924.2012.00210.x).
- “Caffeine Intake and the Risk of Chronic Obstructive Pulmonary Disease in Japanese Adults” (共著), Journal of Caffeine Research, 2(4), pp.176-179, 2012年.
- “Plasma midkine level is a prognostic factor for human neuroblastoma” (共著), Cancer Science, Vol.27, pp.333-341, 2008年.
- 難病疾患患者における包括的QOLの特徴と類似点(共著), 川崎医療福祉学会誌, Vol.17, pp.333-341, 2008年.
- 高校生の予防接種に関する認識度—予防接種啓発講演会実施前後の調査から— (共著), 小児保健研究, Vol.66, pp.638-643, 2007年.
- 世帯形態からみた地域在住高齢者の支援—単独世帯に焦点をあてて (共著), 民族衛生, Vol.72, pp.191-207, 2006年.
- 神経難病患者において包括的QOLが治療や保健サービスに対する満足度に与える考察 (共著), Quality of Life Journal, Vol.6, pp.39-47, 2005年.
- “Health education for nurses in Japan to combat” (共著), Nursing and Health Sciences, Vol.5, pp.199-206, 2003年.
- 難病患者における保健福祉サービスの利用状況とその在り方に関する検討 (共著), 厚生指標, Vol.50, pp.17-25, 2003年.
- “Factors contributing to tooth retention among elderly women” (共著), Kurume Medical Journal, Vol.49, pp.131-142, 2002年.
- 沖縄県の慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫・喘息)死亡一標準化死亡比による全国との比較— (共著), 厚生指標, Vol.49, pp.21-26, 2002年.
- 海洋危険生物の被害の防止と安全対策(単著), 財団法人沖縄県環境科学センター報, Vol.4, pp.67-71, 2002年.
- 救急搬送された小児の事故の実態と予防対策 (共著), 沖縄県立看護大学紀要, Vol.3, pp.1-8, 2002年.
- 地域在住高齢者へのペインマネジメントの導入 (共著), 沖縄県立看護大学紀要, Vol.3, pp.25-32, 2002年.
- 難病患者の地域ベース・コーホート研究—ベースライン調査結果(QOL保健福祉サービス)— (共著), 厚生指標, Vol.48, pp.1-8, 2001年.
- 自己開示性と重要他者との関係—青年期について— (共著), 沖縄県立看護大学紀要, Vol.2, pp.36-44, 2001年.
- “Seasonal Variation in Mortality from Ischemic Heart Disease and Cerebrovascular Disease in Okinawa and Osaka the Possible Role of Air Temperature” (共著), Journal of Epidemiology, Vol.10, pp.392-398, 2000年.
- ラオス国カムワン県のパイロット村における保健衛生に関する疫学的研究 (単著), Ryukyuu Med. J., Vol.19, pp.173-180, 2000年.
- “Effect of Dietary Vitamin E Supplementation on Murine Nasal Allergy” (共著), The American Journal of the Medical Science, Vol.318, pp.49-54, 1999年.
- “Cytokine Production by Splenocytes and Thymocytes in Mice after Intranasal Exposure to Toluene Diisocyanate” (共著), Journal of Occupational Health, Vol.40, pp.279-284, 1998年.
- “Prevalence and clinical features of hepatitis delta virus infection in the Miyako Islands, Okinawa, Japan” (共著), Gastroenterology, 33, pp.850-854, 1998年.
- 気候の寿命に及ぼす影響 (共著), 医学と生物学, Vol.137, pp.179-182, 1998年.
- “Current status of malaria infection in a southeastern province of Lao PDR” (共著), Southeast Asian J Trop Med Public Health, Vol.29, pp.236-241, 1998年.

- 戦後沖縄の結核対策に関する調査研究—保健所活動を中心に— (共著), 民族衛生, Vol.63, pp.362-373, 1997年.
- 余暇意識と余暇行動に関する調査研究Ⅱ—看護学生を対象に— (共著), 沖縄県立沖縄看護学校紀要, Vol.2, pp.96-103, 1997年.
- 余暇意識と余暇行動に関する調査研究Ⅰ—看護婦を対象に— (共著), 沖縄県立沖縄看護学校紀要, Vol.2, pp.88-95, 1997年.
- 新生児の母児同室に関する看護者の意識 (共著), 沖縄県立沖縄看護学校紀要, Vol.2, pp.83-87, 1997年.
- “Nutrient effects on acute gastric mucosal lesions under stress in rats” (共著), Archives of Complex Environmental Studies, Vol.8, pp.41-46, 1996年.
- 沖縄県における海洋性危険生物による被害 (共著), 沖縄県立芸術大学紀要, Vol.4, pp.127-139, 1996年.
- 沖縄県の中小企業におけるエイズ対策の実施状況 (共著), 日本公衛誌, Vol.42, pp.322-329, 1995年.
- “Epidemiological situation of dengue infection in Lao P.D.R” (共著), Tropical Medicine, Vol.35, pp.219-227, 1993年.
- 沖縄県下小学校における感染症による欠席状況の解析及び異常欠席の検討 (共著), 沖縄県公害衛生研究所報, Vol.24, pp.29-39, 1990年.

◎研究テーマ:開発した「IPV(親密なパートナーからの暴力)発見認識尺度(DRS-IPV)」の有効性の検討

◎専門分野:公衆衛生学、疫学、保健統計学

■ 高良 沙哉



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 「慰安婦」問題と戦時性暴力」単著 法律文化社 2015年
- 「琉球/沖縄における植民地主義と法制度」著、木村朗・前田朗編「ヘイト・クライムと植民地主義」共著 三一書房 2018
- 「米軍基地と性暴力」『季刊セクシュアリティ』第75号 2016年
- 「憲法の掲げる平和主義と自衛隊の強化—石垣市・宮古島市の自衛隊配備問題を中心に—」『地域研究』第18号 2016年
- 「沖縄と「慰安婦」問題」『ジェンダーと法』第14号 2017年

◎研究テーマ:軍事性暴力、基地問題と憲法

◎専門分野:憲法学(平和主義、ジェンダー)

■ 豊川 明佳



◎代表著書・論文

- “An Examination of Tourist Migration Behaviour: The Case of Tourism in Okinawa”, 『沖縄大学法経学部紀要』第27号, 2017年
- The Collapse of the ‘Myth of Longevity’ and the Construction of Alternatives: The Case of the Okinawan Health Food Industry, The Association of Japanese Business Studies Proceedings, 2017(査読有り)
- 地域ブランド研究における理論と実践 —「長寿」という表象をいかに用いたのか— 『沖縄大学法経学部紀要』第20号, 2013年
- “Market Analysis of Japanese Functional Food in the UK: Case Study of Okinawa” 『沖縄大学法経学部紀要』第18号, 2012年

◎研究テーマ:沖縄におけるエリアマーケティング

◎専門分野:マーケティング、地域デザイン、コンテクスト・ブランディング

■ 名城 健二



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 「精神科ソーシャルワーカーの実践とかがわり」(単著)中央法規 2007
- 「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)第2版」(共著)中央法規 2016
- 「精神障害者の児童期における生活実態調査—精神疾患発症の要因を児童期の生活環境から捉える試み—」(単著)沖縄県精神保健福祉士協会誌PSWの眼 通巻9号, 2013
- 「乳幼児家庭全戸訪問事業の現状調査—沖縄県内の2自治体の調査から—」(単著)沖縄大学人文学部紀要第15号, 2013
- 「オーストラリアビクトリア州におけるファミリーバイオレンスの対応と予防システム」(単著), 保険医療科学, Vol.63, No.4, 2014
- 「オーストラリアビクトリア州における母子保健サービス—生活上で生じる課題の早期介入の観点からそのシステムを学ぶ—」(単著), 保健師ジャーナル, Vol.71 No.4, 2015
- 「国内における特徴的な母子保健サービスシステムを構築している行政機関へのインタビュー調査—沖縄県における新たなシステム構築を見据えて—」(単著)地域研究所, 第20号, 2017
- 「メンタルヘルスの課題を抱える母親とその子ども支援及び関係機関の連携の現状と課題—沖縄県A市における関係機関へのインタビュー調査から—」(単著), 精神保健福祉, 113号, 2018
- 「母子保健を担当する保健師へのメンタルヘルスの課題を抱える(疑われる)母親支援の現状調査」(単著), 沖縄大学人文学部紀要, 20号, 2018

- ◎研究テーマ:母子保健分野からメンタルヘルスの課題を予防するシステム構築
- ◎専門分野:精神保健福祉、スクールソーシャルワーク

■春田 吉備彦

- ◎代表著書・論文
 - 「使用者の言論の自由と支配介入」土田道夫・山川隆一編『労働法の争点』(有斐閣、2013年)218頁から219頁。
 - 「在日米軍基地従業員の法的地位」青野覚他編『労働法理論の変革と模索』(信山社、2015年)357頁から374頁。
 - 「私傷病休職労働者の復職と就業規則の不利益変更」『中央・ロー・ジャーナル』第13巻1号(中央大学法科大学院、2016年)93頁から104頁。
 - 「処分後に判明した非違行為の処分理由の追加」村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選 第9版』(有斐閣、2016年)108頁から109頁。
 - 「妊娠中の介護労働者に対するマタニティ・ハラスメントと妊婦への健康配慮義務」『沖縄大学法経学部紀要』第27号(沖縄大学)75頁から86頁。

- ◎研究テーマ:駐留軍等労働者、障害者雇用、企業再編、懲戒処分

■圓田 浩二

修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
 - 「誰が誰に何を売るか—援助交際における性・愛・コミュニケーション—」、単著、2001年、関西学院大学出版会
 - 「社会学的フィールドワーク」、共著、2004年、世界思想社
 - 「構造的差別のソシオグラフィ」、共著、2006年、世界思想社
 - 「戦後空間と米軍基地」、共著、2014年、新曜社
 - 「海洋観光資源の保全の試みに対する社会学的考察—座間味村におけるダイビング・ポイントの利用と保全を事例として—」単著、2007年、『沖縄大学人文学部紀要』110号
 - 「沖縄県竹富島におけるリゾート開発と環境保全に関する社会学的研究」単著、2017年、『沖縄大学法経学部紀要』第26号
 - 論文「国際観光地「宮古島」のための二つの挑戦—下地島空港国際線旅客ターミナル整備事業と平良港国際クルーズ船拠点整備事業—」『沖縄大学法経学部紀要』第30号 2019年
 - 論文「ポケモンGO大規模イベントで地域興し・観光誘致は可能か—ポケモンGOの社会学④—」『沖縄大学法経学部紀要』第30号 2019年

- ◎研究テーマ:沖縄社会における社会問題
- ◎専門分野:社会学(観光・環境・地域・青少年・セクシュアリティ)

■村上 敬進

修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
 - “Does Bank Relationship Have an Economic Value? The Effect of Main Bank Failure on Client Firms.”(共著) Economics Letters Vol.65, pp.115-120.
 - 「一部門内生的貨幣成長モデルにおける複数均衡」(単著)『金融経済研究』第18号 pp.11-21. 日本金融学会発行。
 - 「地域の景気後退が地域経済に与える影響について」(単著)『景気とサイクル』第43号 pp.65-85. 景気循環学会発行。
 - 「沖縄県における県民経済計算の長期時系列データ」(単著)『沖縄大学法経学部紀要』第12号 pp.35-54.
 - 『金融論入門』(共著)中央経済社。

- ◎研究テーマ:金融教育、地域景気統計の検討
- ◎専門分野:金融論、景気循環論

■山代 寛

修士論文指導教員

- ◎代表著書・論文
 - 禁煙学 第1版 共著「地域(公民館、集会場を含む)」を分担 2007年 南山堂
 - 禁煙学 第2版 共著「バレニクリンを使った指導法」を分担 2010年 南山堂
 - 「タバコのHistorical Accidentに関わったキリスト者医師「堀俊造」について」日本禁煙学会雑誌2007年10月号
 - 「喫煙対策 沖縄大学の取り組み」沖縄医学会雑誌・2009年11月30日・48巻
 - 沖縄で学ぶ福祉老年学(山代他編)2009年 学文社
 - 『禁煙外来における患者のサポート』月間保団連 2018年3月 No.1259

- ◎研究テーマ:未成年喫煙対策、健康長寿県沖縄の再生
- ◎専門分野:禁煙学 地域医療

■吉川 麻衣子

専攻主任

- ◎代表著書・論文
 - 「沖縄戦を生きぬいた人びと—揺れる想いを語り合えるまでの70年—」2017年、創元社、単著
 - 「心理臨床の学び方」2015年、創元社、共著
 - 「トランスジェンダー青年が抱く性別違和感の思春期・青年期における変容過程—複線径路・等至性モデル(TEM)による分析—」, 沖縄大学人文学部紀要, 第20号, 2018年
 - 「沖縄県の高齢者を対象とした戦争体験の回想に関する基礎的研究」心理学研究, 75(3), 2004年

- ◎研究テーマ:沖縄戦体験者の心理学的研究、性の多様性
- ◎専門分野:臨床心理学、人間性心理学

■吉本 篤人

- ◎代表著書・論文
 - 「イギリス判例法における『純粋経済損失』に関する序論的考察」法律論叢82巻1号227頁(2009)
 - 「『純粋経済損失』に関する学説の検討——イギリス法における議論を中心に——」法律論叢83巻1号269頁(2010)
 - 「『純粋経済損失』概念の意義に関する一考察」沖縄大学法経学部紀要16号25頁(2011)
 - 「不法行為法による経済的利益の保護とその態様」私法76号176頁(2014)
 - 「ドイツにおける自動走行の民事責任と道路交通法(StVG)の改正動向」交通法研究46号140頁(2018)

- ◎研究テーマ:純粋経済損失の意義と不法行為法の限界に関する研究
- ◎専門分野:民法、不法行為法

■組原 洋

非常勤(名誉教授)

- ◎研究テーマ:地域国際化の実践的研究
- ◎専門分野:法の比較文明論

■新城 将孝

非常勤(名誉教授)

- ◎研究テーマ:企業統治に関する研究
- ◎専門分野:商法

■富樫 八郎

非常勤(客員教授)

- ◎研究テーマ:急性悲嘆にある患者に対するソーシャルワーク介入
- ◎専門分野:医療におけるソーシャルワーク

■鳥袋 純

非常勤

- ◎研究テーマ:比較道州制研究、欧州におけるリージョナリズム、沖縄の自治
- ◎専門分野:行政学、地方自治論、比較自治研究

■藤井 晴彦

非常勤

- ◎担当科目:沖縄自然環境特論

■與那原 建

非常勤

- ◎担当科目:沖縄企業・ビジネスモデル研究

■等々力 英美

非常勤

- ◎担当科目:研究法入門

■森川 恭剛

非常勤

- ◎担当科目:刑法特論

沖縄・東アジア地域研究専攻

学位授与方針 (Diploma Policy)

沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題を学際的に解明し、以下のいずれかの観点から、将来の学術的發展に寄与することができる。

- (1) 沖縄の文化、歴史の諸問題や政治・社会構造を「東アジアのなかの沖縄」という視点から研究し、現代沖縄の文化的な諸課題の解明に取り組むことができる。
- (2) 東アジア諸地域の歴史、文化、社会の事象を研究し、現代沖縄の社会文化の諸問題の解明に結びつけて考察することができる。
- (3) 沖縄と東アジアの文化交流の推進モデルの構築に取り組むことができる。
- (4) 沖縄および東アジアの地域研究上の問題に専門的視点および学際的視点から取り組み、その問題解決の方法を概念化し、さらには理論化を試みることができる。

【修了判定・学位授与の基準】

- (1) 本研究科に2年以上在籍し、本研究科所定の講義科目および演習30単位以上取得し、中間発表会を経て学位論文等を作成し、学位論文等の審査に合格した者に学位を認定する。
- (2) 学位論文等審査においては、対象領域の研究水準に関する基本的な知識、研究テーマの方法および内容の明確さ、独創性、論文の体系性と一貫性、文章の完成度等の観点から、公正かつ慎重に判断される。

教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

沖縄・東アジア地域研究専攻では、沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題について、専門的かつ総合的に対応するため、「講義科目」について「沖縄地域研究分野」「東アジア社会文化研究分野」「基礎研究」「事例研究」の4区分で編成する。

- (1) 「沖縄地域研究分野」では、沖縄の歴史、文化、社会、政治、教育等に関する基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (2) 「東アジア社会文化研究分野」では、沖縄と関連するアジア諸地域の歴史、文化、社会、歴史等に関する基礎的知識や研究方法を学ぶ。
- (3) 「事例研究」は、「沖縄地域事例研究」および「東アジア地域事例研究」によって編成され、フィールド・ワークや参与観察、実践研究等を通じて、それぞれの専門的知識や研究方法を学ぶ。

上記3区分に加えて、「演習」では、「研究導入演習」「研究指導演習」を通じて、指導教員が修士論文や特定課題研究の指導を行なう。

入学者受入方針 (Admission Policy)

沖縄・東アジア地域研究専攻は、沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題を学際的に解明し、将来の学術的發展に寄与しようとする以下の人材を求める。

- (1) 大学院での研究に必要な基本的素養があること。
- (2) 希望する研究分野に関して問題意識があること。
- (3) 課題に継続的・主体的に取り組むための意欲・能力があること。

沖縄・東アジア地域研究専攻の 教育課程の特色

沖縄・東アジア地域研究専攻では、比較、対照、総合、学際という方法論的視座から、沖縄や東アジアの文化や政治、社会、歴史などの諸問題について考察を深めていくためのカリキュラムを用意しています。

1

講義科目

講義科目は、多くの学問領域にまたがっていますが、2つの柱となる分野に大別されます。沖縄地域研究分野は、人類学、政治学、社会学、思想史、言語学、教育史、文化研究等の専門領域から、現代沖縄の社会構造や文化の問題について考究する分野です。また、沖縄近世史、沖縄近現代史の科目を置き、歴史的、通時的観点からも沖縄の社会、文化への理解を深めていきます。東アジア地域研究分野は、中国、台湾、韓国、ベトナムなどの東アジア地域の社会、歴史、文化について考察する分野です。また、「中琉日関係史特論」以下の歴史科目を学ぶことで、東アジアの歴史に対する理解を深めると同時に、「東アジアの中の沖縄」という視点から沖縄の歴史、社会、文化の諸問題に国際的な視点からアプローチします。

2

事例研究科目

事前・事後の指導を受け、沖縄の諸地域や歴史、文化関係の資料センター、あるいは沖縄大学がネットワークを持つアジア地域の大学・研究機関において、現地での調査研究（フィールドワーク）を行うことができるよう、また、先端的研究や方法論の探究のため、「沖縄地域事例研究」および、「東アジア地域事例研究」を設けています。

3

演習科目

2年間にわたる一貫した演習を通じて、問題解決、課題解決に向けた研究テーマを設定し、修士論文あるいは特定課題研究が完成できるような指導体制を用意しています。

4

研究実践

地域研究所での研究実践への参加



沖縄大学地域研究所では、本専攻所属教員の多くが学内所員として研究活動を行っています。希望する学生は、こうした地域研究所の共同研究に特別研究員として参加することで、実際の研究活動を間近に見るとともに研究の方法や手法について指導を受けることができます。


2019年度 現代沖縄研究科 沖縄・東アジア地域研究専攻 開設科目一覧

区分	区別	科目名	期別	クラス	単位	週時間	配当年次	担当者	備考
沖縄地域研究分野	選	沖縄文化研究特論Ⅰ	前	01	2	2	1・2	成定洋子	隔年開講 集中
	選	沖縄文化研究特論Ⅱ	後	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	沖縄社会研究特論	集	01	2	2	1・2	田仲康博	
	選	琉球方言特論	前	01	2	2	1・2	高江洲頼子	
	選	沖縄現代史特論	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	沖縄思想史特論	後	01	2	2	1・2	我部聖	
	選	沖縄文学特論	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	沖縄法社会史研究	前	01	2	2	1・2	田里修	
	選	沖縄近世史特論	後	01	2	2	1・2	田里修	
	選	沖縄子ども文化研究	前	01	2	2	1・2	梶村光郎	
	選	沖縄教育史特論	後	01	2	2	1・2	梶村光郎	
	選	地域研究特論	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	地域文化特論	後	01	2	2	1・2	下村英視	
	選	地理学特論	後	01	2	2	1・2	糸数哲	
	選	平和研究特論	後	01	2	2	1・2	宮城晴美	
選	ジェンダー研究特論	集	01	2	2	1・2	宮城公子		
東アジア社会文化研究分野	選	中琉日関係史特論	前	01	2	2	1・2	前田舟子	隔年開講
	選	東アジア文化研究	後	01	2	2	1・2	呉世宗	
	選	東アジア社会研究	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	環境民族学研究	後	01	2	2	1・2	劉剛	
	選	台湾文化研究	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	東アジア国際関係史研究	前	01	2	2	1・2	若林千代	
	選	ベトナム市民社会特論Ⅰ	前	01	2	2	1・2	吉井美知子	
	選	ベトナム市民社会特論Ⅱ	後	01	2	2	1・2	吉井美知子	
	選	多言語社会研究	—	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
選	中国言語文化特論	前	01	2	2	1・2	王志英		
事例研究	選	沖縄地域事例研究Ⅰ	前	01	2	2	1・2	我部聖	旧・研究法入門
	選	沖縄地域事例研究Ⅱ	後	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	沖縄地域事例研究Ⅲ	前	01	2	2	1・2	前田舟子	
	選	東アジア地域事例研究Ⅰ	前	01	2	2	1・2	2019年度不開講	
	選	東アジア地域事例研究Ⅱ	後	01	2	2	1・2	前田舟子	
	選	東アジア地域事例研究Ⅲ	前	01	2	2	1・2	劉剛	
基礎研究	選	実践的研究法入門	前	01	2	2	1・2	等々力英美	旧・研究法入門
	選	学術論文のための日本語	前	01	1	2	1・2	高江洲頼子	
	選	学術論文のための文章作成法	後	01	1	2	1・2	高江洲頼子	
区分	区別	科目名				配当年次	担当者	備考	
演習	必	研究導入演習				1	専任教員	8単位 必修	
	必	研究指導演習				2	専任教員		

22 単位選択必修

沖縄・東アジア地域研究専攻 大学院担当教員紹介 (2019年度)

 沖縄地域研究分野  事例研究

 東アジア社会文化研究分野

■ 糸数 哲

◎代表著書・論文

- 通常降雨イベントにより同定されたタンクモデルを用いた豪雨イベントの再現精度, 水文・水資源学会誌 第26巻第2号, 2013年
- Characteristics of Storm Runoff in Small Granite Catchments Having Different Vegetation Recovery Conditions, International Research Society INTERPRAEVENT, 2014年
- 土石流シミュレータを用いた土石流発生時の避難経路の検討, 京都大学防災研究所年報 第59号B, 2016年
- 流路工等の構造物が土石流の氾濫範囲に及ぼす影響, 第8回土砂災害に関するシンポジウム論文集, 2016年
- 教職課程履修中の学生が作成した学習指導案の検討—中学校社会科地理的分野および歴史的分野を事例に—, 沖縄大学教職支援センター紀要 教職実践研究 第8号, 2018年

◎研究テーマ: 山地流域における降雨流出過程, 降雨時の水と土砂の流出

◎専門分野: 地理学, 水文学

■ 王 志英

◎代表著書・論文

- 終助詞「ね」の語用論的アプローチ, 『日語学と日語教育研究』, 共著, 2003年10月, 西安交通大学出版社, 79-104
- 『命令・依頼の表現—日本語・中国語の対照研究』, 単著, 2005年3月, 勉誠出版社
- 沖縄—中国から見た食材の宝庫, 『沖縄・熱帯野菜の魅力』, 共著, 2006年3月, 沖縄県対米請求権事業協会・助成シリーズ, No.28, 沖縄大学人文学部王志英研究室, でいご印刷, 61-82
- 中国における流行歌の語彙, 共著, 1995年6月, 計量国語学会誌, 『計量国語学』第19巻8号, 397-412(中野洋氏等と共同執筆)
- 日中流行歌の語彙の対照研究, 共著, 1996年6月, 明治書院, 『日本語学』第15巻6号, 74-82(中野洋・王志英・郭拳昆・中野文子等と共同執筆)
- 中国流行歌の変化—日中流行歌の対照語彙論的研究から—, 共著, 1997年7月, 北京日本語学研究会センター, 『日本語学研究』6,24-31(中野洋氏等と共同執筆)
- 中国語の「形容詞の命令文」と“一点儿”について, 1999年10月, 中国語学会, 『中国語学』通巻246号, 79-88
- 中国語の語気助詞“吧”の伝達機能, 1999年10月, 白帝社, 『中国語研究』第41号, 8-17
- 中国語の動詞の重ね型の意味についての再検討, 2000年10月, 白帝社, 『中国語研究』第42号, 23-41
- 命令・依頼表現におけるモダリティ副詞—日本語の「ぜひ」と中国語の“一定”—, 2001年8月, 日本語文化研究会, 『日本語文化研究』第3号, 13-25(『日本語学論説資料』第37号)
- 「ぜひ」の意味再考, 2002年7月, 京都教育大学, 『国文学会誌』第31号, 1-12
- 日本語の終助詞「ね」と中国語の“杏”について, 2002年8月, 日本語文化研究会, 『日本語文化研究』第4号, 27-50(『日本語学論説資料』第40号第5分冊)
- 中国語における動詞の重ね型と動詞について, 2003年3月, 『京都産業大学論集人文科学系列』第30号, 21-32

- 中国語の“起来”についての意味分析, 2006年10月, 白帝社, 『中国語研究』第48号, 53-69
- 中国語の接尾辞“~过”についての意味分析, 日本語文化研究会, 2007年12月, 『日本語文化研究』第10号, 13-27
- “开”と“~开”の構文的文法機能についての分析, 2008年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第10号, 53-63
- 認知的な観点による“过”と“…过”についての再分析, 2008年5月, 日中対照言語学会, 『日中言語対照研究論集』第10号, 74-87
- 中国語の“冲”と“闯”の違いについて, 2009年6月, 『漢日理論言語学研究』, 学苑出版社, 316-325
- 在対外汉语教学中如何教授汉语的动词重叠, 共著, 2009年11月, 『世界汉语教学学会通讯』第3期, 29-30
- 中国語の動詞“取”、“拿”、“带”について, 2009年12月, 沖縄外国文学会, 『Southern Review』No.24, 31-44
- 中国語の“上”と“…上”の用法について, 2010年10月, 『中国語研究』第52号, 62-74
- 中国語の“进”と“~进”の意味と構文形式について, 2012年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第14号, 33-44
- 中国語の“曖昧”と日本語の「曖昧」の違いについて—小学館日中・中日辞典 第2版を参考に—, 2012年7月31日, 『日本語文化研究』第16号, 29-39
- 中国語の“漂亮”、“美丽”、“美”、“好看”について, 2013年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第15号, 1-10
- 中国語の“给”と“~给”について, 2014年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第16号, 15-27
- 中国語“破”の意味と用法, 2016年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第18号, 41-48
- 中国語の進行形の“在”について, 2017年3月, 『沖縄大学人文学部紀要』第19号, 35-43

◎研究テーマ: 中国語の現代文法, 中国語類義語表現, 中国と沖縄の野菜, 野草の比較及びその料理法

◎専門分野: 中国語学, 日中対照言語学, 中国語教育学

■ 梶村 光郎

◎代表著書・論文

- 『戦前戦後日本の学級文集』(復刻, 全20巻)・『学級文集の研究』(別巻), 共編著, 大空社, 1993年~1994年。
- 『復刻 鑑賞文選・綴方読本』(全16巻及び別巻1), 共編著, 緑蔭書房, 2007年。
- 『北中城村史 第七巻 文献資料編』, 共著, 北中城村史編纂委員会, 2012年。
- 「岩崎卓爾の教育文化活動—沖縄言語教育史の一断面—」, 『関東教育学会紀要』第32号, 2005年。
- 「篠原一二の標準語教育実践—沖縄の標準語教育史の一断面—」, 『琉球大学言語文化論叢』第3号, 琉球大学言語文化研究会, 2006年3月。
- 「沖縄の標準語教育史研究—大正期の綴方教育実践を中心に—」(単著), 『言語文化論叢』第7号, 琉球大学言語文化研究会, 2010年3月。

◎研究テーマ: 近現代沖縄教育史研究

◎専門分野: 日本教育史

■我部 聖 修士論文指導教員・専攻主任

◎代表著書・論文

- 「他者とのつながりを紡ぎなおす言葉－新川明と金時鐘をめぐって」DeMusik Inter.編『音の力 沖縄アジア臨界編』インパクト出版会、2006年
- 「岡本恵徳試論－戦争・記憶・沈黙をめぐって」『沖縄文化研究34』、法政大学沖縄文化研究所、2008年3月
- 「継続する戦争への抵抗－池沢聰『ガード』論」『日本近代文学』第78集、日本近代文学会、2008年5月
- 「語りえない記憶を求めて－大城立裕『二世』論」藤澤健一編『沖縄・問いを立てる6 反復帰と反国家－「お国は？」』社会評論社、2008年
- 「山之口貌『会話』を読む－近代沖縄文学の葛藤」勝方＝稲福恵子ほか編『沖縄学入門』昭和堂、2010年
- 「琉球大学における表現と検閲－1950年代『琉球大学学生新聞』を中心に」『沖縄文化研究38』法政大学沖縄文化研究所、2012年3月
- 「占領者のまなざしをくぐりぬける言葉－『琉大文学』と検閲」田仲康博編『占領者のまなざし』せりか書房、2013年
- 「『琉大文学』解説」『琉大文学』解説・総目次・索引』不二出版、2014年
- 「戦後沖縄短編小説史概説」『越境広場』1号、越境広場刊行委員会、2015年

◎研究テーマ：アメリカ占領下の沖縄における文学思想史

◎専門分野：沖縄近現代文学、思想史

■下村 英視

◎代表著書・論文

- 『もうひとつの知－石牟礼道子に導かれて－』創言社、1994年
- 『言葉を持つことの意味－秩序を作る言葉 それを乗り越える言葉－』鉦脈社、2009年
- 『哲学への誘い－新しい形を求めて－』第V巻 自己(共著) 東信堂、2010年
- 『星ふるさとの乾坤－星塚敬愛園を生きた人々－』鉦脈社、2012年
- 『人間存在の探究－福祉の理論のために－』ボーダーインク、2014年
- 『理性主義と排除の論理－沖縄愛楽園に生きる－』ボーダーインク、2015年

◎専門分野：哲学、倫理学

■田里 修

◎代表著書・論文

- 田里・森編『沖縄近代法の形成と展開』2013年 榕樹書林
- 「土地に見る琉球・沖縄の歴史」2019年 榕樹書林

◎研究テーマ：琉球・沖縄の土地・家族・共同体

◎専門分野：法社会史

■成定 洋子 修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 「『ジェンダーの視点』から生まれる関係性：沖縄の女性関連施設における労働過程に関する一考察」富山一郎・森宣雄(編著)『現代沖縄の歴史経験：希望、あるいは未決性について』、青弓社、2010年、209-234頁
- “Consumer culture in a public sector women's organization.”『金城学院大学論集：社会科学編』、2011年、第8巻第1号、216-238頁
- 「他者と住まう：英国における共住の実践」『アリーナ』(中部大学)、2012年、第14号、262-264頁
- 「女性の被害とケア」宿谷晃弘・宇田川光弘・河谷正雄(編著)『ケアと人権(人権Q&Aシリーズ)』成文堂、2013年、61-68頁
- 「性産業従事者の『移動』を語ること－沖縄県宜野湾市における歓楽浄化活動を事例に－」橋村修(編)『比較地域研究の新たなフレームワーク構築に向けて－モビリティをめぐるマイノリティとジェンダーの様相－平成25年度』

◎研究テーマ：沖縄をめぐる社会・文化変容に関する文化人類学的研究

◎専門分野：文化人類学、ジェンダー研究

■前田 舟子

◎代表著書・論文

- 「古代琉球」『琉球沖縄の光と影－海域アジアの視野』五南図書出版社(台湾)、2018年
- 「蔡大鼎・林世功と琉球王国の滅亡」『久米村出身の人物と琉球王国』公益社団法人久米国鼎会、2018年
- 「在外沖縄関連文化財調査－福建省琉球人墓碑編－」沖縄県教育委員会、2017年
- 「官生派遣からみる久米村の役割とアイデンティティ」『久米村と琉球王国』公益社団法人久米国鼎会、2017年
- 「首里国学と久米村」『トランスナショナルな文化伝播 東アジア文化交流の学際的研究』琉球中国関係国際学会議、2015年
- 「琉球官生と南京国子監」『万国津梁－東亞視域中的琉球』中琉文化経済協会(台湾)、2015年

◎研究テーマ：官生(留学生)派遣、久米村、評価貿易

◎専門分野：中琉交流史、琉球史

■宮城 公子

研究科長

◎代表著書・論文

- 「語られる『沖縄』－『外部』と『内部』から」上村忠雄編『沖縄の記憶／日本の歴史』未來社2002年
- 「『滅びゆく琉球女』解説」岡本恵徳他編『沖縄文学選』勉成社 2003年
- 「暴力の表象と沖縄文学の『戦後』－1950年代をめぐって」中野敏男編『継続する植民地主義 ジェンダー／民族／階級』2005年
- 「軍事占領と性暴力」屋嘉比取他編『沖縄の占領と日本の復興』青弓社2006年
- 「『沖縄文学とは？』とはどういう問いか」雑誌『國文學 解釈と教材の研究』2008
- ‘Text and Context: Violence against Women in Okinawan Literature’ (lecture) Interrogating Okinawa: Meanings, Memories & Images National Institute of Japanese Studies 2009
- 「現代と『沖縄県史 各論 8 女性史』－女性史と現在の分有－」第19号2017
- 「沖縄と済州をめぐる暴力の構造－ジェンダーを補助線に－」『JEJU FORUM FOR PEACE & PROSPERITY』韓国外交部2017

◎研究テーマ：近現代沖縄文学におけるジェンダー表象問題

◎専門分野：日本文学・比較文学

■吉井 美知子 修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 吉井美知子、2009「立ち上がるベトナムの市民とNGO－ストリートチルドレンのケア活動から」明石書店、東京、321p.
- 伊藤正子・吉井美知子編著、2015「原発輸出の欺瞞－日本とベトナム、『友好』関係の舞台裏－」明石書店、東京、211p.
- 吉井美知子、2014、第6章「ベトナムでストリートチルドレン問題に取り組むNGO」、第13章「ベトナムのNGOと社会化」秦辰也編『アジアの市民社会とNGO』晃洋書房、京都、pp.65-77、199-217
- Yoshii, Michiko. 2016. Structure of Discrimination in Japan's Nuclear Export - A Case of Ninh Thuan Power Plant in Vietnam - , Hexagon Series on Human and Environmental Security and Peace VOL.10, Springer and Open, pp.107-124
- 吉井美知子、2008「ベトナムのストリートチルドレン問題に関する政府の対応とNGOの可能性」日本NPO学会編『ノンプロフィット・レビュー』Vol.8, No.2、大阪、pp.59-71
- Yoshii, Michiko. 2016. *Indigenous Cham People and the Nuclear Power Plant Project in Vietnam*, Cahier d' études vietnamiennes, No.24, Université Paris Diderot Paris 7, pp.83-109

◎研究テーマ：ベトナムの市民社会と子どもの保護、原発輸出、反戦歌

◎専門分野：国際協力学、ベトナム地域研究

劉 剛



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 『文明と遺伝』1997年 勉誠社
 - 『発展の選択』
 - 『雲南景頗族(カチン族)文化史』2002年 雲南民族出版社 中国・昆明など
 - 『中国雲南少数民族の経済発展における問題と展望－新たな「画一的な政策」の陥穽を避けるために－』1996年「東京経済大学学会誌」東京経済大学
 - 『云南空格人調査-以曼壩約空格人為例』2003年「民族研究」北京
 - 『21世紀のジレンマ:南北合意と中国への影響をめぐって』2001年「『南北合意』と北東アジア情勢へのインプリケーション」p1-20 (外務省国際情報調査室委託調査受託財団法人アジア太平洋研究会)
 - 『雲南地方の観光開発』1997年 p41-49『山岳文化の未来』文部省日仏国際研究プロジェクト(名古屋大学)
 - 雲南跨境民族興雲南対外開放 中国辺疆歴史研究通報(雲南編)1998 北京 p81-90
 - 『歴史もう一つの見方』1998年 文史知識
- その他多数

◎研究テーマ:環境民族学の枠組み

◎専門分野:地域研究・地域文化・民族学・環境民族学など

若林 千代



修士論文指導教員

◎代表著書・論文

- 『ジープと砂塵－米軍占領下の沖縄の政治社会と東アジア冷戦、1945-1950－』有志舎、2015年
- 『俯瞰と『新しい形の歴史』』『現代思想』2012年3月号
- 『在沖縄人民的歴史中想像釣魚台列嶼或尖閣群島』台湾／国立清華大学『東亞脈絡下的釣魚台』2011年
- 編集と解題『アジアのなかで沖縄現代史を問い直す』沖縄大学地域研究所ブックレット11、2010年
- 『關於現代沖縄的〈現場〉和〈現場性〉』『台湾社会研究』第77期、2010年
- 『戦後沖縄における政治空間とその構造をめぐって－朝鮮戦争夜、1948～1950－』季刊『軍縮地球市民』第10号、2007年
- 『沖縄と東アジア冷戦体制の形成－1948年を中心にして－』津田塾大学国際関係研究所『総合研究』第4号、2006年
- 『闇を解き放つとき－木版画・上野誠『原爆の長崎』掌版シリーズに寄せて－』『現代思想』2003年8月

◎研究テーマ:東アジア国際関係史・沖縄現代史・政治社会史・政治文化研究

高江洲 頼子



非常勤

◎研究テーマ:琉球方言、ウチナーヤマトゥグチ

◎専門分野:琉球方言学

田仲 康博



非常勤

◎研究テーマ:メディア論、カルチュラル・スタディーズ

宮城 晴美



非常勤

◎研究テーマ:ジェンダー、平和と人権

呉 世宗



非常勤

◎担当科目:東アジア文化研究

履修について

夜間・土曜開講制

高度の教養と知識や資格を求める社会人や生涯学習を望む院生のニーズに応えるため、講義科目や演習は、原則として平日の6校時・7校時(18:30~21:40)、そして土曜日の3・4・5・6校時(13:00~20:00)に開講されます。

Semester制

現代沖縄研究科では、前学期または後学期ごとに講義科目が完結する Semester制に基づいて教育課程が編成されています。また、夏期休暇等を利用して、集中講義が受講ができるようになっています。これにより、学期ごとの履修計画が立てやすくなり、特に社会人学生にとっては、フレキシブルな履修や研究ができるよう配慮されています。

長期履修制度

2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について長期履修生(3年間修了)としての入学を認めます。手続は、入学時(4月)に行います。長期履修生が1年間で納入する学費は、入学金を除き、2年間の総額を3年で除した額になります。

単位互換協定

沖縄大学(現代沖縄研究科)、琉球大学(人文社会科学研究科前期課程)、沖縄国際大学(地域文化研究科・地域産業研究科・法学研究科)、名桜大学(国際文化研究科)の大学院間には単位互換協定があり、追加授業料なしで10単位までを修得することができます。

院生共同研究室

大学院生には共同研究室が用意されており、学生には専用の机やロッカーが貸与されます。また、共同研究室には、学内LANと接続された共同利用のコンピュータがあり、インターネットの利用が可能です。また学内の2つのコンピュータ教室を利用することもできます。

特定課題研究による修了

「修士論文」だけでなく「特定課題研究」での修了も可能です。特定課題研究は、講義科目及び研究導入演習における事例研究レポート作成の経験等により養われた総合力を基に、受講者がテーマを選択し、自主的に調査研究を進め、レポートを完成させるものです。

奨学金・奨励金について

奨学金制度

- 沖縄大学大学院研究奨励奨学金
- 沖縄大学同窓会奨学金
- 私費外国人留学生学習奨励費
- 日本学生支援機構奨学金

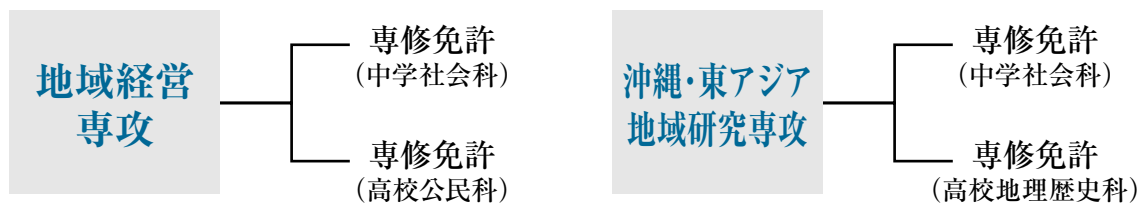
現代沖縄研究奨励金

特に優れた修士論文又は特定課題研究を執筆し、それを基に出版に値する論文等を執筆した者であると推薦された者に100万円、また、博士後期課程入学者で、特に優れた学位論文をまとめ今後の研究活動を援助するにふさわしいと推薦された者に50万円を贈り、卒業後の研究活動を支援するものです。大学院修了後日の5年以内に申請することができます。

専修免許

専修免許

社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許状を取得することができます(下図参照)

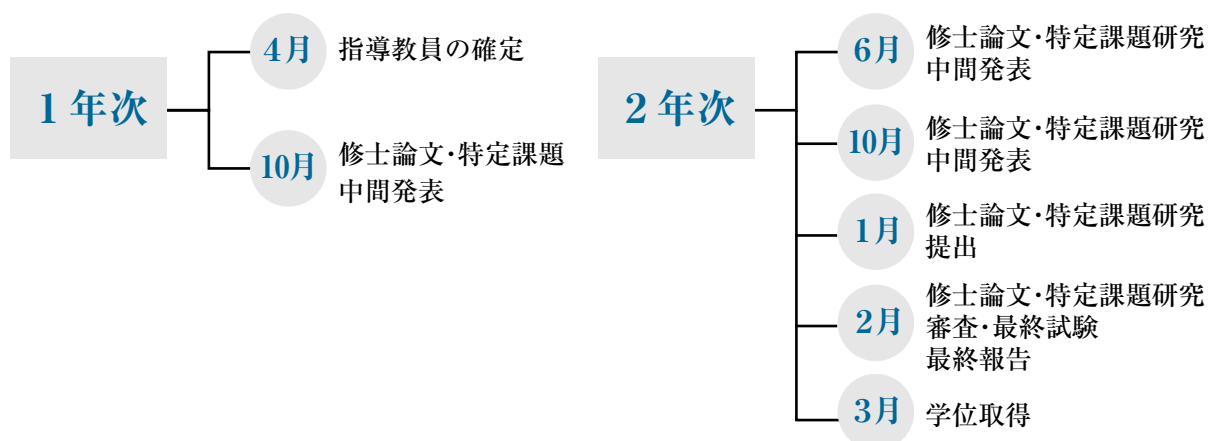


※教員免許法改正による再課程認定申請中

学位授与までの流れ

現代沖縄研究科を修了するためには、2年以上在籍し、30単位以上を修得し、研究指導を受けて修士論文または特定課題研究を提出し、その審査と最終試験に合格することが必要です。そのうえで、最終報告を行います。

地域経営専攻を修了した者には、修士(地域経営)の学位が、また沖縄・東アジア地域研究専攻を修了した者には、修士(地域研究)の学位が授与されます。



2020年度

学生募集要項

現代沖縄研究科

▶▶ 地域経営専攻

▶▶ 沖縄・東アジア地域研究専攻

【2020年度募集について】

沖縄大学大学院では、一般入試(10月試験・2月試験)とAO(社会人特別)入試で学生を募集しています。

- ▶一般入試(10月試験・2月試験)…一般選抜、社会人選抜、外国人留学生選抜
- ▶AO(社会人特別)入試…社会人選抜のみ

<社会人志願者の皆様へ>

沖縄大学大学院・現代沖縄研究科は、沖縄大学創立50周年記念事業の一環として下記のような、社会人対象プログラムを発足させました。詳しくは沖縄大学入試広報室までお問い合わせ下さい。

① AO(社会人特別)入試

多忙な社会人のニーズに対し迅速かつ的確に対応するために、AO(社会人特別)入試を実施しています。

エントリー期間

2019年8月5日(月)～2020年1月31日(金)

② 長期履修制度

2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する志願者を長期履修生(3年間修了)として入学を認めます。長期履修生が1年間で納入する学費は、入学金を除き、2年間の総額を3年で除した額になります。

③ 専修免許

社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許状が取得できます。

1. 募集定員

専攻	一般入試			AO入試
	一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜	社会人選抜
地域経営	5名			
沖縄東アジア	5名			

2. 出願資格

入試区分		出願資格
一般入試	一般選抜	<p>次の各号の一つに該当する者</p> <p>(1) 大学を卒業した者または2020年3月までに卒業見込みの者。</p> <p>(2) 学校教育法102条の規定により学士の学位を授与された者及び2020年3月31日までに授与される見込みの者。</p> <p>(3) 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者(施行規則第155条第1項第1号)</p> <p>(4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2020年3月までに修了見込みの者。</p> <p>(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2020年3月までに修了見込みの者。</p> <p>(6) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者(施行規則第155条第1項第4号)。</p> <p>(7) 指定された専修学校の専門課程を修了した者(施行規則第155条第1項第5号)</p> <p>(8) 旧制学校等を修了した者。</p> <p>(9) 防衛大学校、海上保安学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者。</p> <p>(10) 文部科学大臣の指定した者。</p> <p>(11) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1</p>
	社会人選抜	<p>次の各号の一つに該当する者。</p> <p>(1) 一般入試(一般選抜)の出願資格(1)～(10)までのいずれかの資格を取得してから、大学院入学までに2年以上の社会経験を有する者とし、必ずしも有職者とは限らない。</p> <p>(2) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1</p>
	外国人留学生選抜	<p>次の(1)から(3)のすべてに該当し、かつ(4)または(5)に該当する者。</p> <p>(1) 日本の国籍を有しない者。</p> <p>(2) 「出入国管理及び難民認定法」における「留学」の在留資格を有する者、又は入学後に変更できる者。</p> <p>(3) 修学に必要な日本語能力を有する者。</p> <p>(4) 大学卒業までに16年以上を要する国の16年の課程を修了した者(2020年3月までに修了する見込みの者を含む)、又は当該国の教育官庁が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。</p> <p>(5) 日本国内の大学を卒業した者、または2020年3月卒業見込みの者。</p>
AO入試	社会人選抜のみ	<p>次の各号の一つに該当する者。</p> <p>(1) 一般入試(一般選抜)の出願資格(1)～(10)までのいずれかの資格を取得してから、大学院入学までに2年以上の社会経験を有する者とし、必ずしも有職者とは限らない。</p> <p>(2) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1</p>

【注意事項】

※1 一般入試(一般選抜)の出願資格(11)、一般入試(社会人選抜)の出願資格(2)及びAO入試出願資格(2)で出願する者は、出願資格確認のための事前審査を行いますので、あらかじめ入試広報室までお問い合わせ下さい。(出願資格審査のための書類提出があります)

3. 入試日程

	願書受付期間(必着)	入試日	合格発表 ※2	入学手続期間(必着) ※3
一般入試 (10月)	2019年 9月17日(火)～ 9月26日(木)	2019年 10月5日(土)	2019年 10月11日(金)	2019年 10月15日(火)～ 10月28日(月)
一般入試 (2月)	2020年 1月27日(月)～ 2月 4日(火)	2020年 2月15日(土)	2020年 2月21日(金)	2020年 2月25日(火)～ 3月 2日(月)
AO入試 (社会人特別)	エントリー期間 2019年8月5日(月)～ 2020年1月31日(金)	第一次面談日は 志願者と調整 ※1	第二次審査後 に通知	合格発表時に 通知

※1 「出願可」の通知後、原則2週間以内に出願してください。

※2 合格者には、合格通知及び入学手続書類、不合格者にはその旨を通知します。

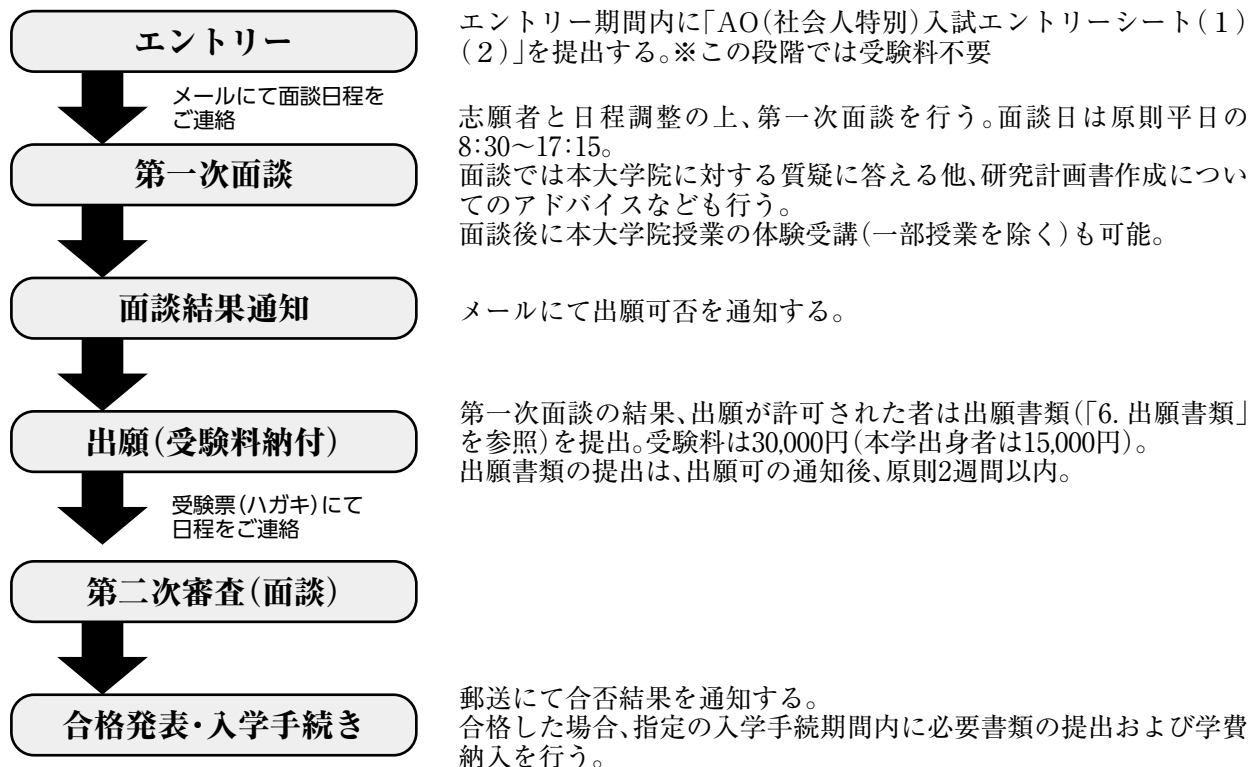
※3 入学手続についての詳細は、合格者に別途通知します。

4. 選抜方法

(1) 一般入試

	試験方法	一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜
語学試験	英語	○	×	×
論述試験	各専攻の専門分野に関する小論文	○	○	○
口頭試問	「研究計画書」をもとに、専門分野に関して行う。(日本語)	○	○	○

(2) AO入試(社会人選抜のみ)



5. 入学検定料(受験料)

入試区分		納入期間	受験料
一般入試	10月試験	2019年9月10日(火)～9月26日(木)	30,000円 ※本学出身者は15,000円
	2月試験	2020年1月20日(月)～2月4日(火)	
AO入試		第一次面談の結果通知後	

受験料は、所定の振込用紙に必要事項を記入の上、本学経理課窓口または最寄りの銀行窓口にて納入して下さい。

※経理課窓口受付時間：9:00～12:00、13:00～17:15(土・日・祝日を除く)

※本学出身者が志望する場合、受験料が半額になります。その際は、振込用紙は使用せずに、15,000円分の郵便為替を同封してください。郵便為替には、何も記入しないで下さい。

6. 出願書類

※AO入試は、エントリー面談後「出願可」となった場合のみ提出。

下記の必要書類を揃え、市販の角2サイズ(ヨコ240mm×タテ332mm)の封筒に封入し、募集要項P5の「出願書類送付用封筒用紙」を貼り付け、郵送または入試広報室窓口にて提出してください。

◆願書提出について

(1) 郵送の場合：速達書留郵便で提出。締切日必着。

(2) 窓口提出の場合：本学入試広報室にて提出。 ※入試広報室窓口受付時間／9:00～12:00、13:00～17:15(土日祝日を除く)

	摘 要	一般入試			AO入試 ※出願時のみ (エントリーでは不要)
		一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜	社会人選抜
入学志願票	本学所定用紙に必要事項を記入し、3ヶ月以内に撮影した正面上半身脱帽写真を貼って下さい。	○	○	○	○
受験票・写真票	本学所定様式を用いること ※受験票に343円分の切手を貼って下さい。	○	○	○	○
成績証明書	在籍した大学等のもの	○	○	○	○
卒業(見込み)証明書	在籍した大学等のもの ※卒業見込みの者は、卒業後に正式な証明書を提出して下さい。	○	○	○	○
卒業論文概要(業績報告書)	本学所定様式を用いること ※卒業論文、研究報告書、学術論文等の業績を有する者のみ提出して下さい。	該当者	該当者	該当者	該当者
研究計画書	本学所定様式を用いること	○	○	○	○
在留カード、住民票、パスポートの写し	住民票は在住している市町村発行のもので、出願1ヶ月以内に交付されたもの	×	×	○	外国人のみ提出

7. 試験会場

沖縄大学(沖縄県那覇市国場555番地)

8. 出願・受験上の注意事項

- (1) 提出された書類及び受験料等は、理由の如何に関わらず返還できませんのでご了承下さい。
- (2) 受験票が試験日3日前までに届かない場合は、入試広報室までご連絡下さい。
- (3) 身体に障がいのある入学志願者で、受験上特別の措置を必要とする場合は、あらかじめ入試広報室までご連絡下さい。
- (4) 試験当日は試験開始15分前までには所定の場所へ集合して下さい。なお、試験開始後30分を経過すると受験を認めません。
- (5) 受験票は必ず持参し、筆記試験中は机上に提示して下さい。
- (6) 出願書類に関しては、本要項に掲載されていなくても、本学が必要と判断した場合には特定の資料、証明書等の提出を義務づける場合があります。
- (7) 試験当日、「学校保健安全法」で出席停止が定められている感染症(インフルエンザ等)にかかり、治療していない場合は、他の受験者等への感染のおそれがありますので、受験をお断りしています。その場合でも追試験等の措置はありません。
- (8) 自然災害・事故等の不測の事態により、入学試験日程の変更等の緊急措置をとる場合があります。入学試験をはじめ大学の情報は、本学webサイト(<http://www.okinawa-u.ac.jp/>)でお知らせしていますので、必ずご確認下さい。

※AO入試の面談日は、原則平日の8:30~17:15となります。

9. 入学金及び諸学費

- 沖縄大学出身者の場合、入学金が半額の60,000円となります。
- 長期履修希望学生は、入学後教務課窓口にて申請が必要となります。初年度入学手続きに限っては、下記学費を納入していただき入学後減額という形をとります。

一括納入

(単位:円)

	入学金	授業料	施設費	後援会費	学生保険料	合計
納入金	120,000	370,000	100,000	10,000	1,750	601,750

分割納入

(単位:円)

	入学金	授業料	施設費	後援会費	学生保険料	合計
入学手続き時 前期納入金	120,000	185,000	50,000	10,000	1,750	366,750
後期納入金	-	185,000	50,000	-	-	235,000

※後期分の学費納入時期は入学後9月上旬です。

10. 入学辞退・学費返還

入学手続きをした者が、事情により本学への入学を辞退する場合は、2020年3月31日までに本学所定の手続きをした者に限り、入学金を除く諸納入金を返還します。ただし、入学金は如何なる理由があっても返還いたしません。

速 達

9 0 2 8 5 2 1

書留・速達分の
切手を貼り付けて
ください

沖縄県那覇市国場555番地

沖縄大学 入試広報室 行

【大学院出願書類他在中】

書 留

書留引受番号

募集区分

	一般入試(一般)
	一般入試(社会人)
	一般入試(外国人留学生)
	AO(社会人特別)入試

志望専攻

	地域経営専攻
	沖縄・東アジア地域研究専攻

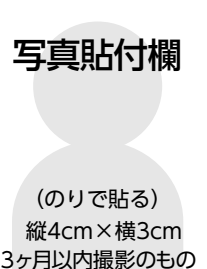
差出人住所	〒	
フリガナ		電話番号(携帯等)
氏名		

【郵送時の注意事項】

角形2号封筒(ヨコ240mm×タテ332mm)を各自用意し、封筒表面にこの用紙をしっかりと貼り付けてください。

角形2号封筒の
(ヨコ240mm×タテ332mm)
表面にのり等で
しっかり貼り付けてください。

沖縄大学大学院 AO (社会人特別) 入試
エントリーシート(1)

		フリガナ		受付日		
 <p>写真貼付欄 (のりで貼る) 縦4cm×横3cm 3ヶ月以内撮影のもの</p>	氏名		男・女	受付番号		
	西暦 年 月 日生 (歳)			※		
	現住所		〒			
	(必記入)メールアドレス		@			
電話番号		(自宅) - -		(携帯) - -		
勤務先	名称	(配属部署・役職名も記入) TEL				
	所在地					

		年(西暦)	月	履 歴 事 項 (高等学校卒業以降すべてを記入)			
学	歴			高等学校		卒業	
				大学	学部	学科	入学
				大学	学部	学科	卒業
(修士以上を記入)		学位名		大学名		論文題目	
学							
位							

		年(西暦)	月	～	年(西暦)	月	勤務先・所属部署・役職等
職	歴			～			
				～			
				～			
				～			
				～			
				～			
				～			
				～			

取得資格	年 月	
	年 月	
	年 月	

太枠内を記入してください。

※データで作成可 (沖縄大学ホームページの入試サイトより様式をダウンロード)

エントリーシート(2)

記入日 年 月 日

* 記入事項が枠内に収まらない場合は別紙を添付し、提出してください。
(様式自由)

氏名			
志望理由			
研究したいテーマと概要	研究テーマ：		
	概要：		
希望指導教員記入欄	第1希望	第2希望	第3希望
特に学びたい分野	<input type="checkbox"/> 未定		
一次面談希望日・時間帯 (複数記入可)			
連絡欄 志願者から大学院側に伝えておきたい事項及び質問事項等について自由にご記入ください			

2020年度 沖縄大学大学院

入学志願票

受験番号	※ 記入しないで下さい。
------	--------------

志望専攻に○を記入して下さい。

専攻	1. 地域経営専攻
	2. 沖縄・東アジア地域研究専攻

募集区分に○を記入して下さい。

募集区分	1.一般入試(一般)	2.一般入試(社会人)	3.一般入試(外国人留学生)	4.AO(社会人特別)入試
希望指導教員 記入欄	第1希望	第2希望	第3希望	

※AO入試受験者のみ記入

面接希望日・時間帯 (複数記入可)	
----------------------	--

出願者	フリガナ		性別	生年月日
	氏名		男女	西暦 年 月 日 満()歳
	住所	〒	電話番号	(自宅) () - (携帯) () -
	出願資格	立	大学	学部 学科 西暦 年 月 卒業・卒業見込

年(西暦)	月	学歴
		高等学校卒業


年(西暦)	月	職歴(所属部署・業務内容)

※AO入試受験者はエントリー面談終了後に提出

写真貼付欄

(のりで貼る)
縦4cm×横3cm
3ヶ月以内撮影
写真票と同一写真

振込依頼書 (取扱店保存)

フリガナ			取りまとめ店
志願者氏名			琉球銀行寄宮支店(普) 121286 沖縄銀行識名支店(普) 1319699 沖縄海邦銀行寄宮支店(普) 0448092
住所			
募集区分	一般入試(一般)	一般入試(外国人留学生)	
志望専攻	一般入試(社会人)	AO(社会人特別)入試	
志望専攻	地域経営専攻 沖縄・東アジア地域研究専攻		
受験料 ¥30,000	受取人(学) 沖縄大学		
入試種別	AO入試 一般入試(10月) 一般入試(2月)		

領収済通知書 (取扱店→取りまとめ店→沖縄大学保存)

フリガナ			取りまとめ店
志願者氏名			琉球銀行寄宮支店(普) 121286 沖縄銀行識名支店(普) 1319699 沖縄海邦銀行寄宮支店(普) 0448092
住所			
募集区分	一般入試(一般)	一般入試(外国人留学生)	
志望専攻	一般入試(社会人)	AO(社会人特別)入試	
志望専攻	地域経営専攻 沖縄・東アジア地域研究専攻		
受験料 ¥30,000	受取人(学) 沖縄大学		
入試種別	AO入試 一般入試(10月) 一般入試(2月)		

領収書 (本人控)

志望専攻	地域経営専攻 沖縄・東アジア地域研究専攻
氏名	
	受験料 ¥30,000
	

取扱銀行へのお願い

①～④まで押印し、
振込依頼書・領収済通知書
以外は、依頼人へ
お返し下さい。

速達

切手343円

受験票


住所

氏名

※住所、氏名を記入の上、志望専攻・募集区分の
該当箇所に○印を記入してください

受験番号	※ 記入しないで下さい
志望専攻	1. 地域経営専攻 2. 沖縄・東アジア地域研究専攻
募集区分	1. 一般入試(一般) 3. 一般入試(外国人留学生) 2. 一般入試(社会人) 4. AO(社会人特別)入試

写真票

受験番号	※ 記入しないで下さい
志望専攻	1. 地域経営専攻 2. 沖縄・東アジア地域研究専攻
募集区分	1. 一般入試(一般) 2. 一般入試(社会人) 3. 一般入試(外国人留学生) 4. AO(社会人特別)入試
フリガナ	
志願者氏名	
受験料 ¥30,000	受取人(学) 沖縄大学
写真貼付欄	 <p>(のりで貼る) 縦4cm×横3cm 3ヶ月以内撮影 入学志願票と同一写真</p>

沖縄大学大学院 受験票

試験日時は下記の通りとなりましたのでお知らせします。

通信欄

入学試験当日は試験開始 15 分前までに指定の場所へお越し下さい。
本受験票は必ず持参し、試験会場では机上に掲示して下さい。

卒業論文概要(業績報告書)

氏名

卒業論文概要(業績報告書)は、卒業論文、研究報告書、学術論文等の業績を有する者のみ提出して下さい。
※枠内に収まらない場合は別紙を添付し、提出してください。(様式自由)

